

## がん遺伝子パネル検査受診のための検体についてのご案内

がん遺伝子パネル検査は、次世代シーケンサを用いて解析を行いますので、品質の担保された DNA を充分量抽出する必要があります。そのため、以下の条件を満たす検体のご提供をお願い致します。なお、文頭のチェックボックスをご活用頂き、適切な検体のご準備をお願い致します。

### 1. ご提供頂く検体の固定条件などについて

- 10%中性緩衝ホルマリンで固定された検体であること
- ホルマリン固定時間が、6~72 時間以内であること（推奨は 6~48 時間以内）
- ホルマリン固定後 3 年以上経過していない検体であること
- 脱灰処理を行っていない検体であること（脱灰処理が必要な場合、EDTA を主成分とする中性脱灰液が使用されたもの）
- 過去に受けた放射線治療の照射範囲に含まれていない検体であること

### 2. 病理組織検体の準備について

- ご提供頂く検体は、ホルマリン固定パラフィン包埋ブロックから薄切された HE 標本と未染標本です。
- 最初に既存の HE 標本を検鏡し、出血や壊死、炎症細胞などの非腫瘍性細胞の少ないブロックを複数個選択して下さい。
- 次に選択されたブロックの中から腫瘍細胞含有率（腫瘍専有面積ではなく、全細胞数に対する腫瘍細胞の割合）が、30%以上となる領域（DNA 抽出部）を含むブロックを 1 つ選択して下さい。
- 肝臓を用いる場合は、肝細胞の DNA 量は体細胞の 2 倍であるため、腫瘍細胞含有率は 60%以上となるようにして下さい。
- 選択したブロックから新規に HE 標本を 1 枚作製し、DNA 抽出部にマーキングを行い、マーキング済みの HE 標本をご提供下さい。
- 未染標本は、薄切後 12 ヶ月未満であれば受託されますが、薄切後から DNA の劣化が進行するため、可能な限り新規に未染標本を作製して下さい。
- がん遺伝子パネル検査に必要な組織量は  $1 \text{ mm}^3$  です。DNA 抽出部の面積が  $25 \text{ mm}^2$  以上であった場合は、 $4 \sim 5 \mu\text{m}$  の未染標本を 10 枚ご準備下さい。
- DNA 抽出部の面積が  $25 \text{ mm}^2$  未満であった場合は、組織量が  $1 \text{ mm}^3$  以上となる

よう未染標本の枚数を追加して下さい。

- マイクロダイゼクションは、受託検査会社で行いますので、貴施設で行う必要はございません。
- 未染標本作製時は、グローブを着用するなど、核酸分解防止に努めて下さい。
- 薄切時は、マイクロトーム刃を交換するなど他検体とのコンタミネーションを避けるよう十分にご注意下さい。
- 未染標本は、検体番号のみを記載し、個人を特定できる情報（氏名等）は記載しないで下さい。
- 全ての未染標本は、「同一の検体番号」を記載し、枝番や薄切順数などは記載しないで下さい。
- 未染標本は、正電荷スライドグラスに貼付し、伸展・乾燥のための加熱を避け、常温で管理して下さい。
- 1枚のスライドグラスには、1つの切片のみ貼付して下さい。

お手数をお掛け致しますが、適切な検体提出の為に、御協力をお願い致します。

詳細に関しては、羊土社から出版されている「日本病理学会編 ゲノム研究用・診療用病理組織検体取扱い規定」をご参照下さい。